

⑥刊行物 Area19

2006（平成18）年美術界年史

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）

物故者

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は以下の通り395号、396号、397号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』395号（20年度第1冊／2008年8月刊行）

（論 文）鄭岩（加藤直子訳）「漢代喪葬画像における観者の問題」

（論 文）綿田稔「自牧宗湛（下）」

（研究ノート）田中淳「尾高鮮之助と岸田劉生」

（研究ノート）小林未央子「なめらかな表面のために—小出櫛重再考—」

『美術研究』396号（20年度第2冊／2008年11月刊行）

（論 文）渡邊雄二「聚光院方丈障壁画を語る文脈」

（論 文）綿田稔「聚光院の成立時期についての一仮説—障壁画作期議論の前提として—」

（研究ノート）高橋秀治「藤雅三《破れたズボン》発見報告」

（展覧会評）「狩野永徳展」（綿田稔）

『美術研究』397号（20年度第3冊／2009年3月刊行）

（論 文）林玲愛（守屋美佐子訳）「高句麗古墳の角抵図に登場する「西域人」のイメージ」

（論 文）角田拓朗「満谷国四郎《自画像》の彷徨い—五姓田派の所在を問うことの意味—」

（図版解説）田中淳「萬鉄五郎《軽業師》および《太陽と道》」

（書 評）「大西磨希子『西方浄土変の研究』」（津田徹英）

『無形文化遺産研究報告』（⑥無04-08-3/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第3号

高桑いづみ「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」

近藤静乃「現行法会における付物・付楽の諸相

—2008年勤修の法会に関する調査報告—」



菊池理予「無形文化遺産としての工芸技術—染織分野を中心として—」

深津裕子「伝統工芸技術の記録と保存

—江戸時代後期の「葛布地道中着」に用いられた素材の復元を事例として—」

森下愛子「近代京都の陶芸技術にみる古典へのまなざし—革新と復古の間で京焼陶工が目指したもの—」

大島暁雄「民俗行事の変化とその評価について—愛知県「鳥羽の火まつり」を例に—」

服部比呂美「立物花火の技術伝承—愛知県新城市東新町「立物保存会」の事例から—」

土田牧子「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真」

飯島満「国立音楽大学附属図書館寄贈 竹内道敬旧蔵音盤目録（3）」

『無形民俗文化財研究協議会報告書』（⑥無04-08-3/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。その第3回に当たる本年度は「無形民俗文化財に関わるモノの保護」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



テーマ「無形民俗文化財に関わるモノの保護」

I. 宮田繁幸「序にかえて」

II. 俵木悟「趣旨説明」

III. 報告

*報告1 服部比呂美「年中行事における飾り物継承の諸問題

—七夕馬とツクリモノ—」

*報告2 石井聖子「西塩子の回り舞台の復活と活用」

*報告3 橋本章「長浜曳山祭における曳山の保存と修復について

—祭りのなかで曳山を活かすつづける方途—」

*報告4 田中彰・保木隆「江名子バンドリの製作技術の材料確保、保護するための取り組み」

IV. 総合討議

V. 参考資料

VI. アンケート結果

VII. あとがき

「保存科学」48号の出版（⑥保04-08-3/5）

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『保存科学』第48号

小椋大輔、銚井修一、李永輝、石崎武志、三浦定俊

「過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析

—保存施設稼働時の気象条件の影響と、発掘直後の仮保護施設の影響—」

呂俊民、佐野千絵、内呂博之、荒屋鋪透

「ポーラ美術館における室内空気清浄化のための火山ガスの調査」

